

心配していた雨も上がり、油掛地藏様の「六道巡り」大祭を無事盛大に終える事ができました。心より御礼申し上げます。空海大師は「大は(人)より(生)ずるが故に人生と言ひ、凡夫は善悪に盲く、因果有るを信ぜず、但眼前の利を見、何ぞ地獄の火を知らん」と申されました。聖徳太子の遺語に「世間は虚仮にして、唯佛のみ是れ真なり」とあります。聖徳太子の御一生を思えば、その御苦勞を佛教に傾注することで打開を求められたのでしよう。十七条の憲法に「悪を懲らし善を勧むるは、古の良き典なり。ここを以つて人の善を匿さず、悪を見ては必ず匡すべし。又、信はこれ義の本なり。事ごとに信あるべし」との条文があります。悪い事をしようとする人には注意をし、間違つた事をさせない。善悪の判断は信によるから。「しかしながら今や注意したのが為に親が子に殺されたり、躰という名目で親が子を殺したりと思わぬ事態を招いています。思ひ出すのは秋葉原で起きた十七人の殺傷事件です。犯人の青年が「みんな敵、友達が欲しい、本当の友達に欲しい」と書き残していました。折角佛縁を頂いて此の世に生を受け、人生街道を歩むも、苦渋に悩む青年の心を癒し導いてやる人材も場所もなかった事を残念に思います。何人も私達は佛縁に随つて生まれ、佛縁を頂いて死ぬというのに。やはり人生はさまざまです。そして多くの人はまた六道に生まれる事になるのでしょうか。空海大師様は「物の興廢は必ず人に由る、人の昇沈は定んで道に在り」と言われました。正しく、善悪をわきまえ、清く・正しく・美しくであります。人様に迷惑を掛ければ自分も禍を被る事になります。例えば、お経によれば「誹謗中傷したり、嘘を言っていると口臭のヒドイ人間に生まれる」とあります。口臭はとても気になる問題です。新聞の広告にもよく出ていますが、思わぬところに原因があるものです。心当たりがお有りの方、私も含め皆様注意をしましょう。人生は、この様に思わぬところに問題が潜んでいるようです。一言いえば、一つ動けば、縁を結びに走り出されてしまうのです。そして、思わぬ結果に遭遇し、苦難の道を歩むことにもなりかねません。交通事故ではないですが注意一秒ケガ一生と言う事にもなりかねませんので御用心あれ。真善美の研鑽を積みましょう。今年も六道を巡られた方。六道の意味をかみしめて一年の反省をし、少しでも人間として恥じる事の無いように、正道を邁進し、六道からの脱却を目指していきましょう。論語に曰く「学びて思わざれば則ち罔し」と、学んだように自信を以つて行動することでしょう。しか言う物の私も悩み悩み悩みに悶々として読経すれば、木魚の音を聞く娘に心を悟られる。なお苦しいかな。

平成二十五年五月一日

善壽界善入院油掛地藏尊

